

令和2年度 栃木県立宇都宮南高等学校評価に関するアンケート結果報告

I はじめに

本校の教育活動改善に資する資料とするため、全校生徒948名と保護者を対象に10月27日(火)から11月6日(金)にかけて「学校評価に関するアンケート」を実施しました。昨年度同様、多くの保護者の皆様からご回答を頂き、ありがとうございました。自由記述のご意見も多数お寄せ頂き保護者の皆様の本校の教育活動への関心と期待の高さをあらためて認識いたしました。ご要望も多数寄せられましたが、さらなる改善に向け可能な限り取り組んでまいりますので、今後とも本校の教育活動に対するご理解ご協力を賜りたく存じます。

アンケートの回答状況については次のとおりです。

回答数 生徒 940名(1年:315名 2年:315名 3年:310名)
保護者 837名(1年:304名 2年:274名 3年:259名)

提出率 生徒 99.2% 保護者 88%

アンケート結果の分析は、次の点に留意しました。

- ① 回答項目のすべての回答状況をグラフ化し、特徴的なことを付記しました。
- ② 「生徒」「保護者」に共通する質問項目については、質問項目を領域ごとにA「学校のイメージ」、B「学習」、C「進路」、D「生活指導」、E「学校行事・部活動」、F「環境・施設」に分類し、両者のデータを並べて掲載しました。
- ③ 「生徒」「保護者」いずれかのみを対象とした質問項目については、個別に掲載しました。

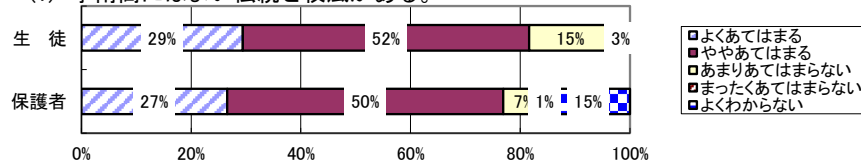
II アンケート結果概要

注:「よくわからない」という回答選択肢は、保護者対象のアンケートにのみ設けました。また、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて肯定的な評価とし、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせて否定的な評価とし、各質問項目の回答状況を分析しています。

(1) 生徒・保護者共通質問項目

A 学校のイメージについて

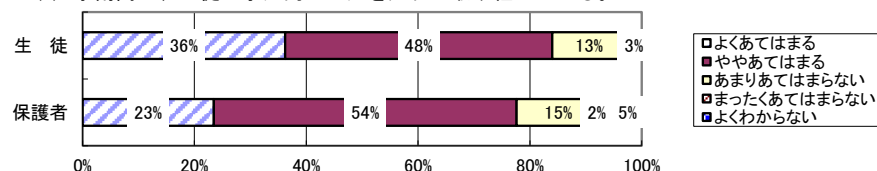
(1) 宇南高にはよい伝統と校風がある。



肯定的評価については、保護者は昨年度とほぼ同様の結果だが、生徒は微増し80%を超えた。しかし、保護者の「よくわからない」という回答が15%に微増した。コロナ禍で保護者対象の学校行事のほとんどが中止になったことも要因の一つと考えられるが、本校の教育活動の広報が課題である。

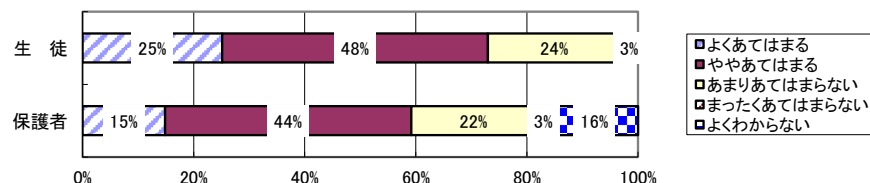
B 学習について

(4) 宇南高は、生徒の学力向上に力を入れて取り組んでいる。



生徒の肯定的評価は84%、保護者は77%で3年前から高い水準を維持している。ここ数年の学力向上への取組が浸透してきた成果であると思われる。今後も授業を中心に課外や土曜開放(特別講座)も含めて学力向上に向けた取組を維持、改善する必要がある。

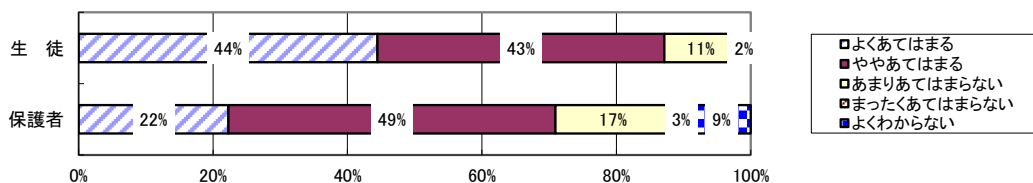
(13) 宇南高は、家庭学習時間の確保について適切に指導を行っている。



肯定的評価は、生徒、保護者とも昨年度とほぼ同様であり、7割の生徒が家庭学習時間の確保について適切な指導を受けていると回答しているが、保護者の否定的評価が25%(4人に1人)に達していることから、家庭学習時間は実際のところまだ期待されているレベルにまで到達していない状況と思われる。今後も家庭学習習慣の定着に向け、保護者と連携を図り効果的な指導に努める必要がある。

C 進路について

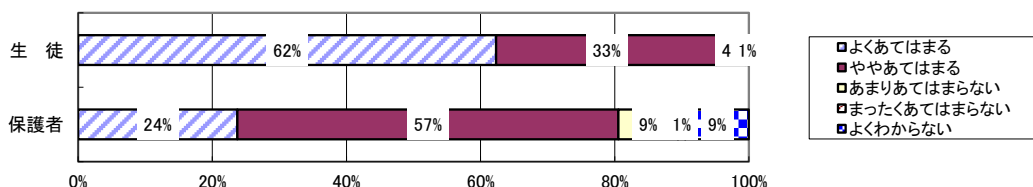
(5) 宇南高は、生徒の進路について適切な指導や情報提供を行っている。



生徒の肯定的評価については、昨年度とほぼ同様の結果だが、「よくあてはまる」という回答が38%から44%に増加した。保護者については、肯定的評価、否定的評価ともに昨年度とほぼ同じ結果である。今後も進路に関する適切な指導や情報提供を通して、納得のいく進路実現に努める必要がある。

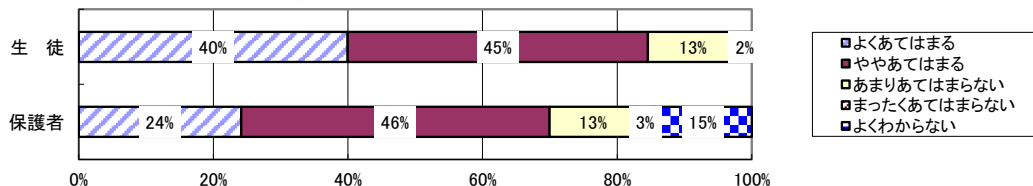
D 生活指導について

(6) 宇南高の生徒は、校則や社会のルールを理解し行動している。



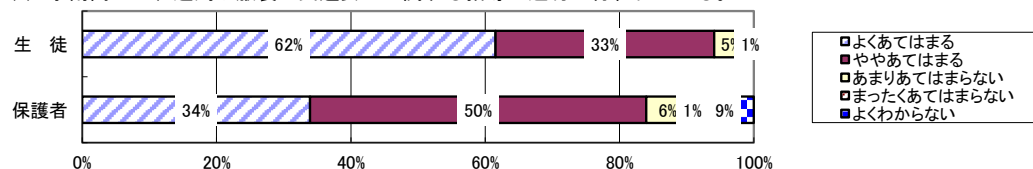
生徒については、肯定的評価、否定的評価ともに昨年度と同様の結果であった。しかし、「よくあてはまる」という回答は56%から62%に増加した。保護者については、肯定的評価は昨年度比で1%の微増で、否定的評価は2%の微減で概ね良好な結果である。しかし、例年同様、生徒と保護者の認識が大きく異なっており生徒の学外の行動には課題が残る可能性を示唆している。今後も保護者と連携を図りながら、継続的に指導していく必要がある。

(7) 宇南高の先生は、生徒や保護者の悩みや相談に親身になって応じてくれる。



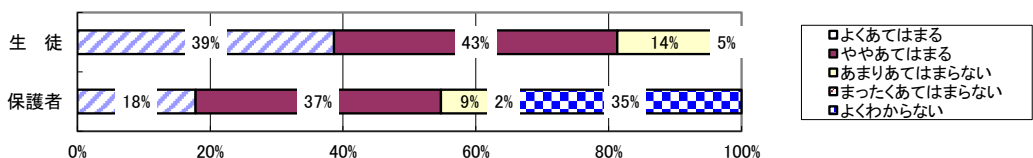
肯定的評価については、保護者は昨年度と同じ結果であるが、生徒は83%から85%へと微増した。ただし、この設問に対して15%の生徒と16%の保護者が否定的に回答しており、また「まったくあてはまらない」という回答がそれぞれ2.3%ある。さらに保護者の15%が「よくわからない」と回答していることから、今後とも保護者と緊密に連携を図り、個人懇談や日常的な生徒観察を通して、潜在している生徒の不安や悩みも感知し、より適切な指導援助が行えるよう努めていく必要がある。

(8) 宇南高では、遅刻や服装・交通安全に関する指導が適切に行われている。



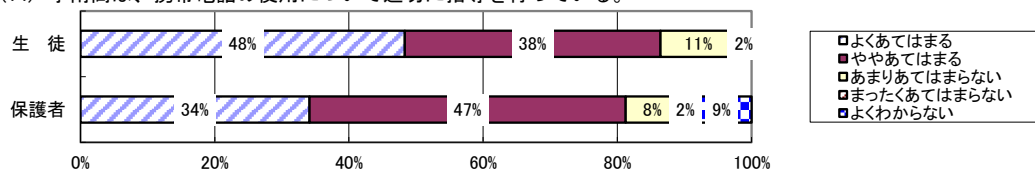
保護者については、肯定的評価、否定的評価ともに昨年度とほぼ同じ結果であったが、生徒については、昨年度比で肯定的評価が92%から95%に増加し、また「よくあてはまる」という回答が55%から62%に増加した。各学年で組織的に実施している始業前登校指導が生徒の肯定的評価を押し上げたのかもしれない。一方で、交通事故は頻発している状況であり、今後も本校周辺が交通事故が起りやすい環境であることを強く認識し、交通安全指導の徹底を図る必要がある。

(15) 宇南高では、いじめ防止対策が適切に機能している。



生徒については、肯定的評価、否定的評価ともに昨年度とほぼ同じ結果であったが、保護者については、肯定的評価が52%から55%に増加した。しかし、昨年度同様、生徒の否定的評価が19%（約5人に1人）、保護者の「よくわからない」という回答が35%に上る。本校はいじめアンケートを毎月実施するなど防止対策のシステムは充実しているが、それに加え、生徒への声かけや言動への目配りなど恒常的な指導のさらなる強化が課題である。

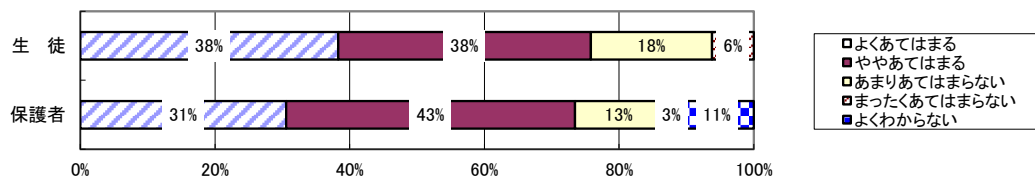
(14) 宇南高は、携帯電話の使用について適切に指導を行っている。



生徒については、肯定的評価、否定的評価ともに昨年度とほぼ同様の結果であったが、「よくあてはまる」という回答が42%から48%に増加した。保護者については、肯定的評価が78%から81%に増加し、「よくあてはまる」という回答が28%から34%に増加した。携帯電話及びスマホの使用についてはマナーだけでなくその機能性の多様さも相まって適切な使用の必要性が一層求められている。マナー遵守とSNS全般の健全使用について保護者と共通理解を図りながら引き続き指導の徹底を図る必要がある。

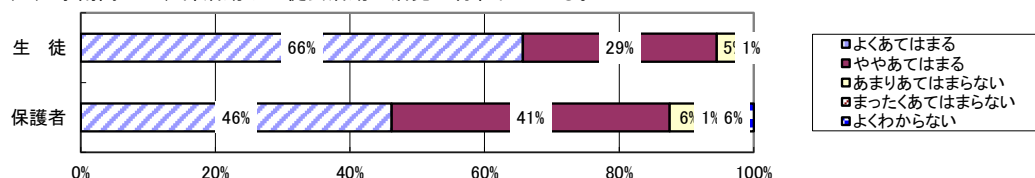
E 学校行事・部活動について

(9) 宇南高の学校行事(宇南高祭・球技大会・マラソン大会等)は充実している。



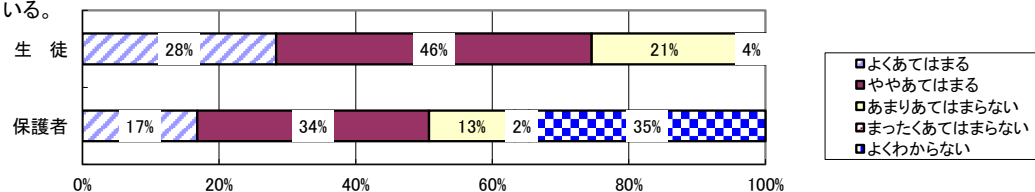
生徒については、肯定的評価が71%から76%に増加し、否定的評価が29%から24%に減少した。一方、保護者については、肯定的評価が86%から74%に減少し、否定的評価が10%から16%に増加し、また「よくわからない」という回答も4%から11%に増加した。今年度、学校行事はコロナ禍により例年通りの実施が叶わなかったが、安易に中止にはせず、生徒会が中心となりコロナ対策を講じた上で変更を加え実施した行事が多かった。逆境の中で生徒がより主体的に行事に取り組むことになり、それが生徒の肯定的評価の増加につながった可能性がある。今後コロナ対策と学校活性化及び教育効果の観点を踏まえ、コロナ禍における行事の在り方について検討を続けていく必要がある。

(10) 宇南高では、部活動や生徒会活動が活発に行われている。



部活動については、コロナ禍により大会等が中止になり、また日常的な活動についても感染予防対策を講じる必要があり、従前通りの活動は叶わないのだが、肯定的評価が生徒は95%、保護者も昨年度の90%から87%に微減したものの、今年度も高評価を維持している。本校の部活動は、運動部、文化部ともに積極的に活動しており、それが本校の強みであり、また魅力にもなっている。生徒会活動も含め、今後とも活性化のための取組を維持する必要がある。

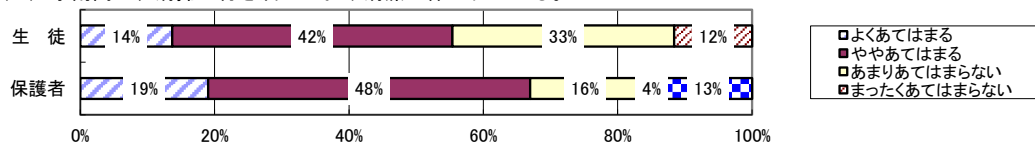
(16) 宇南高では、地域と連携した活動や、国際性を高める活動(インターアクト活動等)を積極的に行っている。



昨年度と比較すると、肯定的評価が大きく減少(生徒:86%⇒74%、保護者:63%⇒51%)し、否定的評価(生徒:14%⇒25%、保護者:12%⇒15%)が増加した。今年度はコロナ禍により、ほぼすべての行事が中止され、それが反映された結果となった。地域連携及び国際理解も本校の特長の一つであるが、コロナ禍における活動の在り方を模索し、引き続きグローバル人材育成の基盤となる教育活動を充実させる必要がある。

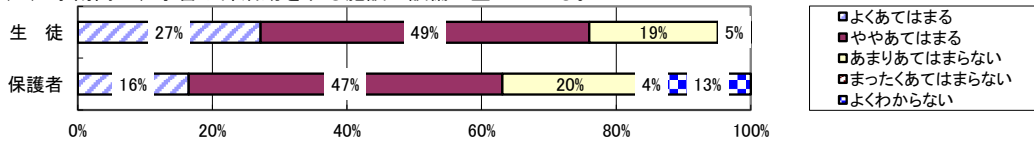
F 環境・施設について

(11) 宇南高は、清掃が行き届いており清潔に保たれている。



昨年度と比較すると、肯定的評価が増加(生徒:48%⇒56%、保護者:63%⇒67%)し、否定的評価が減少(生徒:53%⇒45%、保護者:28%⇒20%)した。今年度は、肯定的評価が否定的評価を上回ったが、依然として清掃活動への取組については改善の余地が大いにある。清掃活動は学校を適切な学びの場として維持する精神衛生面での機能と、利他性や協働力の育成という教育効果を併せ持つ極めて重要な教育活動である。清掃活動の充実に向け、その意義や重要性を踏まえ、より効果的に指導する必要がある。

(12) 宇南高は、学習や部活動をする施設・設備が整っている。

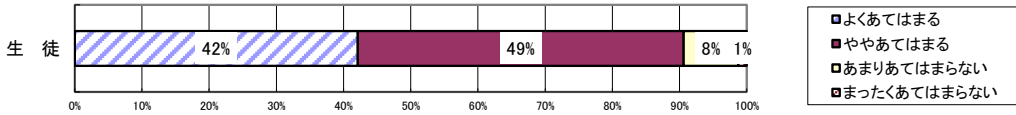


昨年度と比較すると、肯定的評価が増加(生徒:66%⇒76%、保護者:59%⇒63%)し、否定的評価が減少(生徒:34%⇒24%、保護者:31%⇒24%)した。武道場の改修など少しずつ施設・設備の改善が進んできていることが反映された結果であると思われる。教育活動の充実にはハード面の整備が欠かせない。今後とも県との調整を図りながら改善に向け取り組んでいく必要がある。

(2) 生徒だけへの質問項目

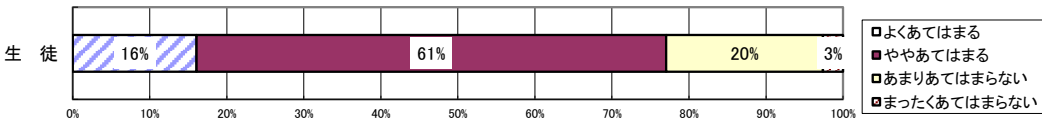
G 自分自身について

(15) 真剣な態度で授業を受けている。



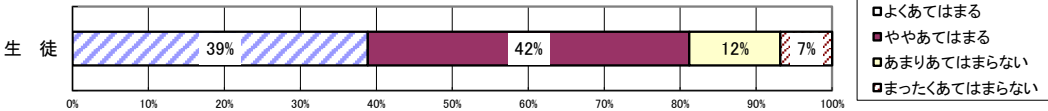
肯定的評価は、昨年度とほぼ同じで91%であり、生徒の授業に取り組む意識が高いことが表れている。授業は学校の教育活動の中心であり、真剣に取り組むことが何より重要であるが、授業をさらに充実させるために、予習・復習等の家庭学習にも意欲的に取り組める生徒の育成が喫緊の課題である。

(16) 宇南高の授業の教え方や説明はわかりやすい。



昨年度とほぼ同様の結果である。今後の教育改革、入試改革に対応すべく、わかりやすい授業を心がけ、生徒の興味関心を喚起し、主体性を引き出すことができるよう引き続き授業改善に取り組んでいく必要がある。

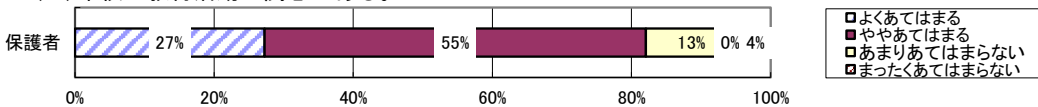
(17) 宇南高に入学してよかった。



学校満足度については、肯定的評価は昨年度の72%から81%に増加し、否定的評価は昨年度の27%から19%に減少した。学習・進路・部活動・友人関係等、要因は複合的であるが、今後も学校の教育活動、指導体制のさらなる改善に向け、各部・各学年が連携を図り、よりよい学校づくりに取り組み、学校の魅力をさらに高めていく必要がある。

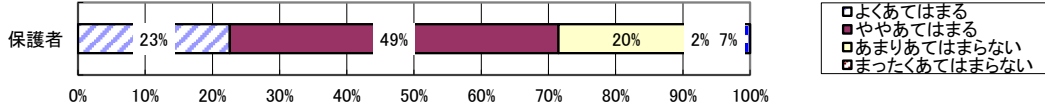
(3) 保護者だけへの質問項目

(18) 本校の教育活動に関心がある。



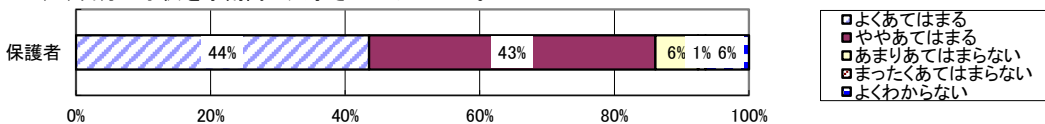
昨年度とほぼ同様の結果であり、82%の保護者から本校の教育活動について関心があるとの回答が得られた。ただし、13%の保護者は評価が否定的であり、「よくわからない」という回答も4%ある。本校の教育活動をより一層充実させ、保護者の関心をさらに高めるよう努めていく必要がある。

(19) 宇南高は、教育方針をPTA総会と学年会等でわかりやすく伝えている。



昨年度と比較すると、肯定的評価は67%から72%に増加し、否定的評価はほぼ同様であり、「よくわからない」という回答が12%から7%に減少した。全体的には改善したが、約5人に1人の保護者が否定的に評価しており、教育方針の情報発信については依然として課題が残る。PTA総会や学年会等で発信する情報を吟味し、またホームページ等の活用を通して教育方針及び教育活動に関する情報発信にさらに努める必要がある。

(20) 自分の子供を宇南高に入学させてよかった。



昨年度と比較すると肯定的評価が86%から87%に微増し、否定的評価が9%から7%に微減した。今後も教職員一丸となって教育活動を充実させ、本校の教育力をさらに高めるよう努めるとともに、教育活動の様々な場面で保護者との連携強化を図り、学校と家庭双方で、生徒の健全育成に努める必要がある。